



兵庫県立大学大学院
減災復興政策研究科
Graduate School of Disaster Resilience and Governance



SDGs 国際フォーラム 2024

気候変動 × 防災

気候危機時代の防災・復興の新たな展開 ～災害廃棄物の観点から～

日時

令和 6 年 12 月 17 日 (火)
13 時 30 分 ～ 16 時 00 分

参加費無料

会場

ラッセホール 2 階 ローズサローン
(神戸市中央区中山手通4-10-8)

日英同時通訳

プログラム

13:30-13:35 開会挨拶

菅 範昭
兵庫県環境部長

〔第一部〕

13:35-14:15 基調講演

『災害廃棄物処理と持続可能性』

大迫政浩
国立研究開発法人国立環境研究所フェロー

14:15-14:55 海外事例紹介

『フィジーとフィリピンの沿岸都市における台風後の
災害廃棄物管理能力の開発』

グレン・フェルナンデス
アラブ首長国連邦 ラブダンアカデミー レジリエンス学部准教授

14:55-15:05 休憩

〔第二部〕

パネルディスカッション

15:05-15:55 テーマ

『災害廃棄物処理と事前の備え』

コーディネーター
阪本真由美
兵庫県立大学大学院
減災復興政策研究科教授

パネリスト
大迫政浩
国立研究開発法人
国立環境研究所フェロー

グレン・フェルナンデス
アラブ首長国連邦
ラブダンアカデミー
レジリエンス学部准教授

大塚義一
株式会社奥村組
技術本部 環境技術専門部長

高原伸兒
兵庫県環境部
環境整備課長

15:55-16:00 閉会挨拶

リンダ・アン・スティーブンソン
アジア太平洋地球変動研究ネットワーク (APN) センター長代理

阪神・淡路大震災から30年。この節目に環境と防災について考えてみませんか？

気候変動により、災害は大規模化し頻発しています。だからこそ、私たち一人ひとりの行動が未来を守る重要な力となります。今回のフォーラムでは、「災害廃棄物」をテーマに、日常生活でできる備えや災害時の廃棄物の再資源化など、SDGsの理念に基づく持続可能な防災・復興のあり方を考えます。震災の経験と教訓を未来にどうか、一緒に学びましょう。



登壇者プロフィール

大迫政浩

国立研究開発法人
国立環境研究所フェロー



これまで30年間、廃棄物管理研究に従事。
2011年の東日本大震災直後から13年間、資源循環領域の領域長として放射能汚染廃棄物や災害廃棄物対策研究をけん引。
2024年4月から現職。
環境放射能除染学会理事長、廃棄物資源循環学会前会長。

大塚義一

株式会社奥村組
技術本部 環境技術専門部長



1990年に総合建設会社である株式会社奥村組に入社。
2011年に東日本大震災復興支援のため東北へ赴任。
以降、災害廃棄物処理・災害復旧・復興・除染・減容化事業等の技術支援を行っている。博士（地球環境学）。

グレン・
フェルナンデス

アラブ首長国連邦
ラブダンアカデミー
レジリエンス学部准教授



京都大学大学院地球環境学堂にて博士号を取得。フィリピン災害廃棄物管理協会の創設者兼初代会長。2023年と2024年に、事業継続協会（BCI）の中東賞（継続性およびレジリエンスボランティア部門）を受賞。
Environmental Development誌の副編集長。

高原伸兒

兵庫県環境部
環境整備課長



1996年に入庁後、阪神・淡路大震災のがれき処理の進捗管理を担当。2013年の淡路島地震、2014年の丹波市豪雨災害、2016年の熊本地震（益城町）、今年1月の能登半島地震（珠洲市）等で、がれき処理を支援。

阪本真由美

兵庫県立大学大学院
減災復興政策研究科教授



国際協力機構で国際協力に携わった後に、
京都大学大学院情報学研究所博士後期課程修了。博士（情報学）。人と防災未来センター主任研究員、名古屋大学減災連携研究センター准教授を経て現職。専門は、災害対策、被災者支援、減災コミュニケーション、防災教育。国土強靱化推進会議委員、兵庫県防災会議委員、神戸市防災会議委員などを歴任。



<https://forms.gle/DeWGgY3hEETo4Jnt5>

本日はご参加いただきありがとうございます。
フォーラム終了後、上の二次元コードからアンケートにご協力をお願いします。